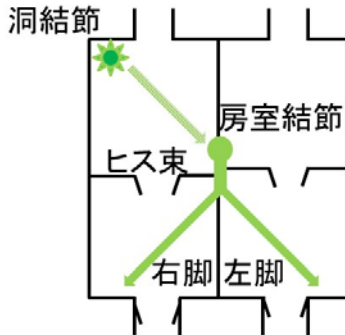


不整脈

不整脈とは？

心拍数や調律（心臓のリズム）の異常を不整脈と呼びます。正常では、右房にある洞結節が、生体内ペースメーカーとして心拍を司っています（正常洞調律）。洞結節で発生した電気刺激は、心房から房室結節を経て、ヒス（His）束を介し心室中隔に伝わります。ヒス束は右脚と左脚に分岐し、プルキンエ（Purkinje）線維となって両心室に伝わります。



不整脈は、大別して、調律が乱れる期外収縮、心拍数が速くなる頻脈、心拍数が遅くなる徐脈の3つの種類があり、それぞれ以下のような疾患があります。

- ・ 期外収縮：上室期外収縮（心房期外収縮、接合部期外収縮）、心室期外収縮
- ・ 頻脈性不整脈：発作性上室頻拍、心房頻拍、心房粗動、心房細動、心室頻拍、QT延長症候群、ブルガダ（Brugada）症候群、心室細動
- ・ 徐脈性不整脈：洞不全症候群、房室ブロック

どのような症状が起きますか

無症状でも、感冒・予防接種・健診の診察や心電図検診などで、偶然発見されることがあります。学童では、動悸、胸痛、脈の不整、疲れやすさなどを訴えることがあります。乳幼児では、頻脈（まれに徐脈）が続くと、心不全から哺乳・活気の不良が認められます。めまい・失神・痙攣は重症不整脈の場合があり、とくに運動に関連する場合は注意が必要です。

どのように診断しますか

心電図で確定診断します。胸部レントゲン写真、心エコーなども行い、他の疾患の有無を検査します。詳しい検査には、ホルタ心電図（24時間、小型の器械をつけます）と運動負荷心電図があります。さらに、心臓カテーテルによる電気生理学的検査を行うこともあります。

どのように治療しますか

無症状の軽い不整脈は、通常、治療は不要です。治療が必要な場合、心拍数が速い不整脈では、薬剤、カテーテルアブレーション（経皮的な心筋焼灼術）、直流通電、植え込み型除細動器（ICD）などを行います。心拍数が遅い不整脈では、ペースメーカーを取りつけます。